

健康増進及び疫学調査のための
基本健康診査データ収集システム確立事業

解析結果（速報版）

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

千葉県衛生研究所

平成 19 年 7 月

目 次

．目的

．健診情報の収集、集積、解析の概略

．データの収集

．分析方法

- 1． 検査データの標準化
- 2． 測定項目の判定方法（管理区分）
- 3． 集計方法
- 4． データの解析

．結果

- 1． 協力市町村
- 2． 検査データの補正
- 3． 匿名化
- 4． 性別にみた測定項目別、5年間の判定区分集計値
- 5． 性別にみた、同一人の測定項目別、5年間の平均値
- 6． 性別にみた、同一人の測定項目別、判定区分「異常なし」「異常なし以外」の変化
- 7． 性別にみた、同一人の血圧、脂質、血糖のリスク保有の変化
- 8． 特定健診の判定区分に基づく、2006年の血圧・脂質・血糖のリスク保有状況

．目的

県では、市町村が実施した基本健康診査の結果を県の健康施策に活かすと共に市町村の健康増進事業を支援することを目的に、検診検査値の標準化、共通の判定値による判定、連結可能な匿名化作業を含む基本健診データを収集するシステムを構築し、集積データの解析を行う「基本健康診査データ収集システム確立事業」を平成15年度から開始した。

．健診情報の収集、集積、解析の概略

県が、市町村に協力を依頼し、同意を得た市町村またはその市町村から委託されている各健診検査機関が、基本健診データを匿名化したうえで県衛生研究所に提出した。

県衛生研究所は、精度管理情報に基づく検査値標準化のための情報と匿名化した基本健診データを収集し、解析を行った（図1）。

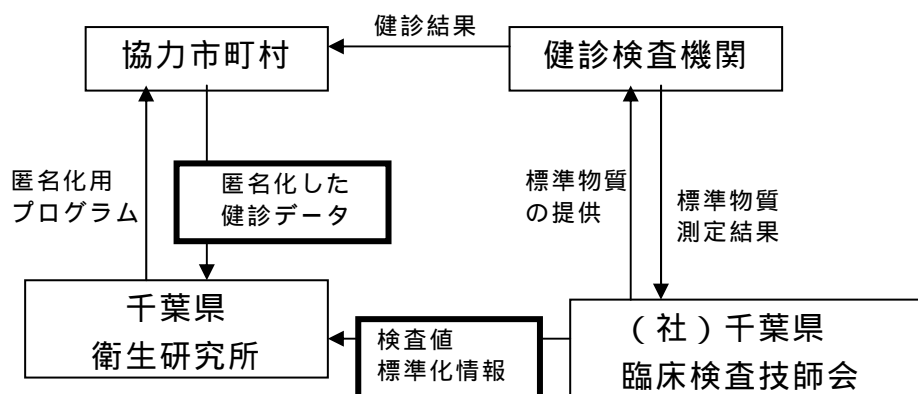


図1 基本健診データ収集システムの概要

．データの収集

1．基本健診データの収集

県は、委託業者が開発した、生年月日と氏名から個別IDを作成するプログラム（匿名化用プログラム）を市町村に提供した。市町村（健診検査機関）はこのプログラムにより連結可能な匿名化IDを作成して基本健診データに付与するとともに、健診データから個人識別情報を削除した新たな基本健診データを作成し、県衛生研究所に提出した。

2．検査値標準化情報の収集

協力市町村が委託をした健診検査機関に（社）千葉県臨床検査技師会の標準物質「チリトリロール2000」の測定を依頼し、その測定値をもとに（社）千葉県臨床検査技師会が各健診検査機関の検査測定値標準化の方法を決定し、県衛生研究所に報告した。

3．基本健診データの収集項目

各市町村から検査情報として収集した検査の種類（検査項目）は、脂質検査（総コレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪）、肝機能検査（GOT、GPT、 γ -GTP）、腎機能検査（クレアチニン）、糖尿病検査（血糖、ヘモグロビンA_{1c}）を収集した。また、基本情報として、必須項目（性、生年、身長、体重、血圧）と任意項目（現在の症状、既往歴、治療状況、喫煙状況）を収集した。

．分析方法

1．検査データの標準化

(社)千葉県臨床検査技師会が、各健診検査機関の行ったチリトリール 2000 測定結果をもとに各健診機関の精度管理の状況を評価し、補正が必要と判断された場合は補正式を算出した。これに基づき衛生研究所が各市町村の検査データの標準化を行った。

2．測定項目の判定方法(管理区分)

1) 厚生労働省の管理区分基準(表1)

各検査項目の管理区分は厚生労働省循環器判定基準を用いた。

1.血圧(mmHg)				
	異常認めず	正常高値	要指導	要医療
収縮期血圧	~ 129	130 ~ 139	140 ~ 159	160 ~
拡張期血圧	~ 84	85 ~ 89	90 ~ 99	100 ~
2．脂質検査				
1) 総コレステロール値 (mg/dl)				
	異常認めず	要指導(a)	要指導(b)	要医療
男性	150 ~ 199	200 ~ 219	220 ~ 239	240 ~
49歳以下女性		~ 149		
50歳以上女性	150 ~ 219	220 ~ 239	240 ~ 259	260 ~
		~ 149		
2) HDL コレステロール値 (mg/dl)				
	異常認めず	要指導		要医療
	40 ~	35 ~ 39		~ 34
3) 中性脂肪 (mg/dl)				
	異常認めず	要指導		要医療
	~ 149	150 ~ 299		300 ~
3．糖尿病検査				
	異常認めず	要指導		要医療
空腹時血糖(血漿)(mg/dl)	~ 109	110 ~ 125		126 ~
随時血糖(血漿) (mg/dl)	~ 139	140 ~ 199		200 ~
ヘモグロビン A _{1c} (%)	~ 5.4	5.5 ~ 6.0		6.1 ~
4．肝機能検査				
	異常認めず	要指導		要医療
GOT(単位)	8 ~ 40	10 ~ 50		51 ~
GPT(単位)	3 ~ 35	36 ~ 45		46 ~
-GTP(単位)	~ 59	60 ~ 99		100 ~
5．腎機能検査(クレアチニン)				
酵素法	異常認めず	要指導		要医療
男性	~ 1.1	1.2 ~ 1.3		1.4 ~
女性	~ 0.8	0.9 ~ 1.0		1.1 ~
Jaffe法	異常認めず	要指導		要医療
男性	~ 1.3	1.4 ~ 1.5		1.6 ~
女性	~ 1.0	1.1 ~ 1.2		1.3 ~

指導区分の決定：指導区分の決定にあたっては総コレステロール値等を参考にして総合的に判断する。

2) 肥満の判定

肥満の判定にはBMIを用い、BMIは体重を身長²で除して(体重(kg)÷身長(m)²)算出した。値を「やせ」: 18.5未満、「標準」: 18.5以上25未満、「肥満」: 25以上と分類した。

3) リスクの集積

血圧、脂質検査、糖尿病検査の各検査を構成する項目において、1 つでも判定区分が要指導以上の場合、該当する検査の「リスクあり」とし、血圧、脂質検査、糖尿病検査のリスクありの該当数を個別に算出した。

3. 集計方法

(1) BMI、(2) 収縮期血圧、(3) 拡張期血圧、(4) 総コレステロール、(5) HDL コレステロール、(6) 中性脂肪、(7) GOT、(8) GPT、(9) -GTP、(10) 糖尿病検査について、各項目の判定区分の構成割合を性・年齢階級別に示した。

糖尿病検査項目の判定区分は、血糖（随時または空腹時）を測定している場合は血糖の判定区分、ヘモグロビン A_{1c}のみ測定の市町村については、ヘモグロビン A_{1c}の判定区分を糖尿病検査の判定区分とした。血糖、ヘモグロビン A_{1c}の両方を測定している場合は、血糖の判定区分を採用した。クレアチニンについては、測定方法が酵素法と Jaffe 法が混在すること、健診機関別の測定方法の情報が十分に得られなかったことにより集計から除外した。同一人の項目別判定区分変化は、2002 年と 2006 年の結果の比較とし、「異常認めず」と「異常認めず以外」の該当の変化により「02 年異常認めず 06 年異常認めず」「02 年異常認めず以外 06 年異常認めず」「02 年異常認めず 06 年異常認めず以外」「02 年異常認めず以外 06 年異常認めず以外」の 4 群に分けた。

結果は、各年度において協力を得られた市町村全体または 5 年間継続してデータの提供があった 16 市町村全体について検討した。

4. データの解析

健診データは電子媒体で収集し、衛生研究所の専用コンピュータに集積した。データの解析には、SPSS for windows Ver12.0J 及び Microsoft Excel を用いた。

結果

1. 協力市町村

1) 協力市町村名

年度	新規に参加した協力市町村名（参加時の市町村名）
2002～ 2003 年	旭市、印西市、印旛村、飯岡町、海上町、君津市、九十九里町、栄町、山武町、白子町、東金市、蓮沼村、干潟町、松尾町、茂原市、八街市
2004 年	鎌ヶ谷市、神埼町、成田市、袖ヶ浦市、大網白里町、白井市
2005 年	銚子市、長生村、東庄町、長南町、成東町
2006 年	本埜村

2) 2002 年から 2006 年の協力市町村数とデータ数

年度	市町村数（合併後）	男	女	合計
2002 年	16 (11)	17059	36779	53838
2003 年	16 (11)	17705	37463	55168
2004 年	22 (17)	22805	54495	77300
2005 年	27 (21)	27662	63756	91418
2006 年	22	26414	61753	88167

3) 2006 年度における、対象者の性、年齢階級別人数

	男		女		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
40歳未満	1716	6.5	9358	15.2	11074	12.6
40～44歳	1436	5.4	6125	9.9	7561	8.6
45～49歳	2011	7.6	7286	11.8	9297	10.5
50～54歳	3066	11.6	10642	17.2	13708	15.5
55～59歳	3774	14.3	8958	14.5	12732	14.4
60～64歳	5266	19.9	7559	12.2	12825	14.5
65～69歳	4389	16.6	5906	9.6	10295	11.7
70～74歳	2892	10.9	3751	6.1	6643	7.5
75～79歳	1382	5.2	1654	2.7	3036	3.4
80歳以上	482	1.8	514	.8	996	1.1
合計	26414	100.0	61753	100.0	88167	100.0

4) 5年間のデータが得られた対象者の性、年齢階級別人数

	男		女		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
40歳未満	75	1.0	422	2.5	497	2.1
40～44歳	318	4.4	1505	9.0	1823	7.6
45～49歳	526	7.3	1896	11.3	2422	10.1
50～54歳	825	11.5	2865	17.1	3690	15.5
55～59歳	797	11.1	2709	16.2	3506	14.7
60～64歳	1312	18.3	2684	16.1	3996	16.7
65～69歳	1500	21.0	2331	14.0	3831	16.1
70～74歳	1119	15.6	1499	9.0	2618	11.0
75～79歳	510	7.1	642	3.8	1152	4.8
80歳以上	175	2.4	154	0.9	329	1.4
合計	7157	100.0	16707	100.0	23864	100.0

2. 検査データの補正

チリトロール 2000 の測定結果から、いずれの健診検査機関においても検査データの補正は必要ないと判断された。

3. 匿名化

匿名化プログラムを用いて連結可能な匿名化 ID 番号を作成し経年データの突合を行った結果、同一市町村間では ID の重複はなかった。しかし、転居を考慮して市町村間のデータ突合を行った結果、同一 ID 番号であっても性別が異なるなどの理由で同一人かどうか判断できないケースが 3 件みられた。

4 . 性別にみた測定項目別、5年間の判定区分集計値

1) BMI

受診者全体の年齢階級別の判定区分の推移を見ると、男性では、70歳以上において「やせ」判定者が減少する傾向が、女性では40歳未満から50～54歳までにおいて「やせ」判定者が増加する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、男性は「肥満」の割合が40歳未満から60歳代は3割以上であり、40歳代、50歳代は4割近いが70歳代以降は「肥満」が減少した。女性は「肥満」の割合が40歳未満から64～69歳までは年齢階級が上がると増加し、75歳以降は減少していた。

図 2-1 BMI 判定の性・年齢階級別経年変化（男）

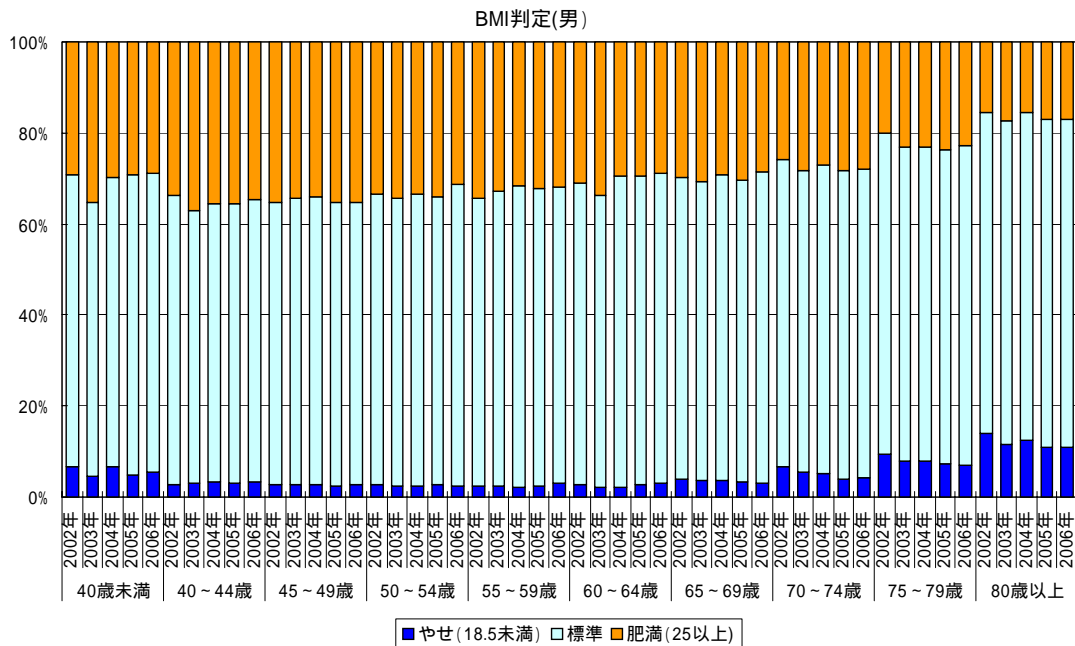
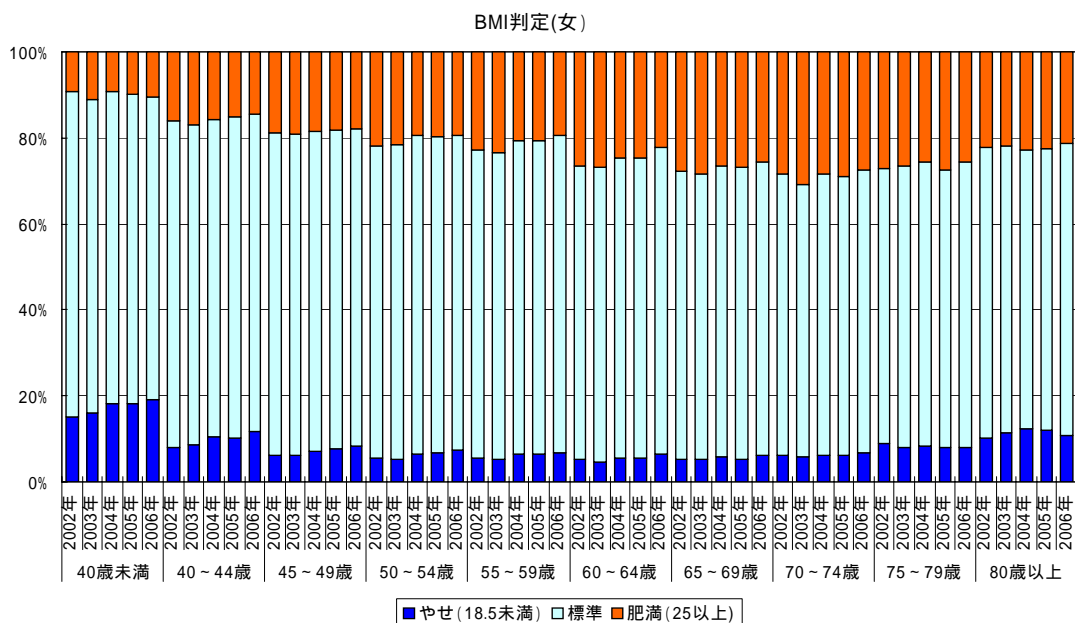


図 2-2 BMI 判定の性・年齢階級別経年変化（女）



2) 収縮期血圧

受診者全体の年齢階級別の判定区分の推移を見ると、男女とも5年間の判定区分割合には大きな変化は見られなかった。

年齢階級別にみると、男女とも「異常認めず」の割合は年齢が高くなるにつれて減少し、「要指導」、「要医療」が増加した。男性と女性を比べると、40歳未満から60歳代までは男性より女性の方が「異常認めず」の割合は多いが、70歳以降はほぼ同率であり、女性の方が年齢階級ごとの血圧の上昇が大きいことが示唆された。

図 3-1 収縮期血圧判定の性・年齢階級別経年変化（男）

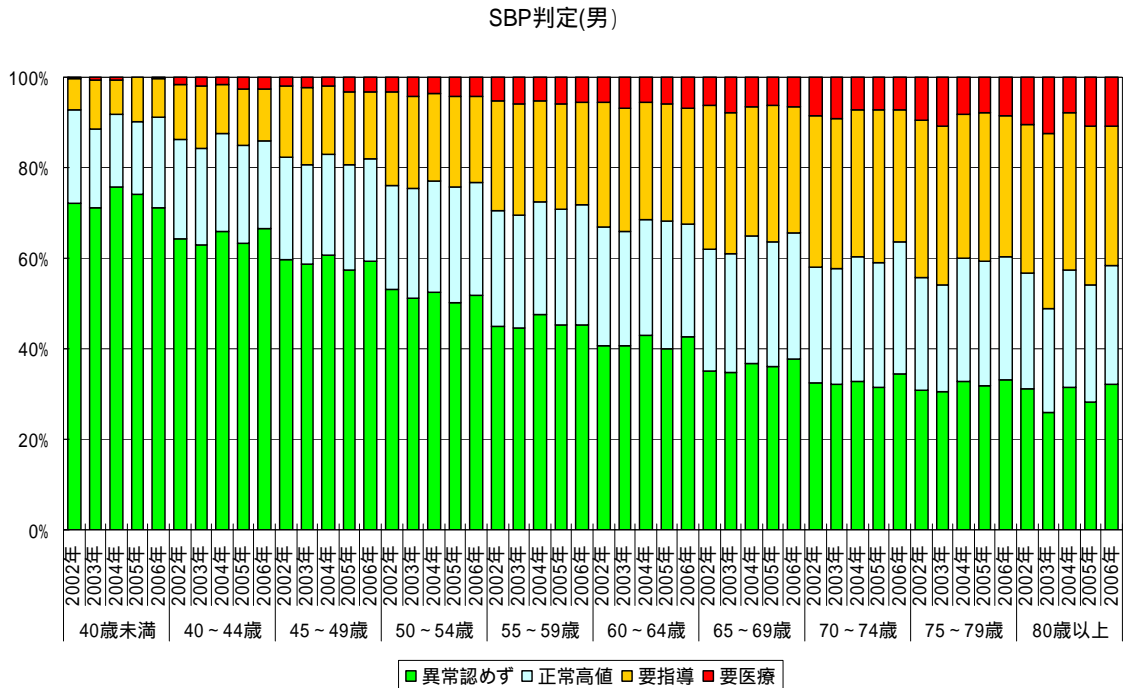
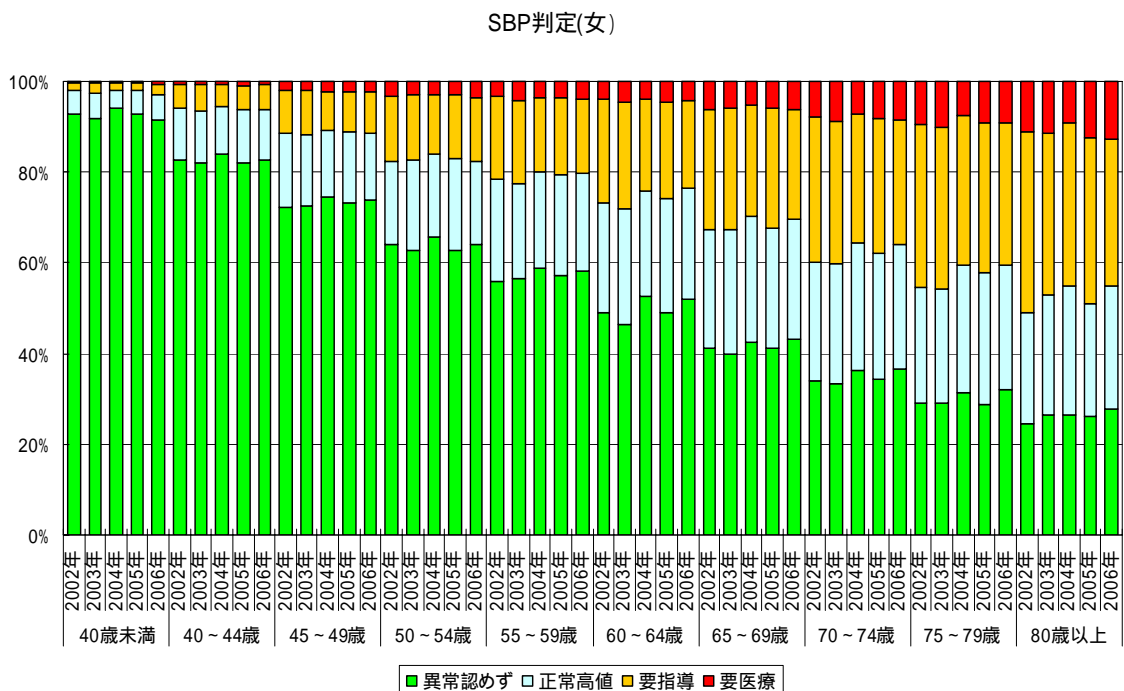


図 3-2 収縮期血圧判定の性・年齢階級別経年変化（女）



3) 総コレステロール

受診者全体の年齢階級別の判定区分の推移を見ると、男女とも各年代において「要指導B」と「要医療」の割合が毎年増加する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、男性では40歳から60歳代の「異常認めず」の割合が他の年代より低かった。女性では、「異常認めず」の割合が40歳未満から55～59歳までは低下し、70歳以降は増加していた。女性の55～64歳では「異常認めず」が40%未満と、男性よりも「異常認めず」の割合は低かった。

図 4-1 総コレステロール判定の性・年齢階級別経年変化（男）

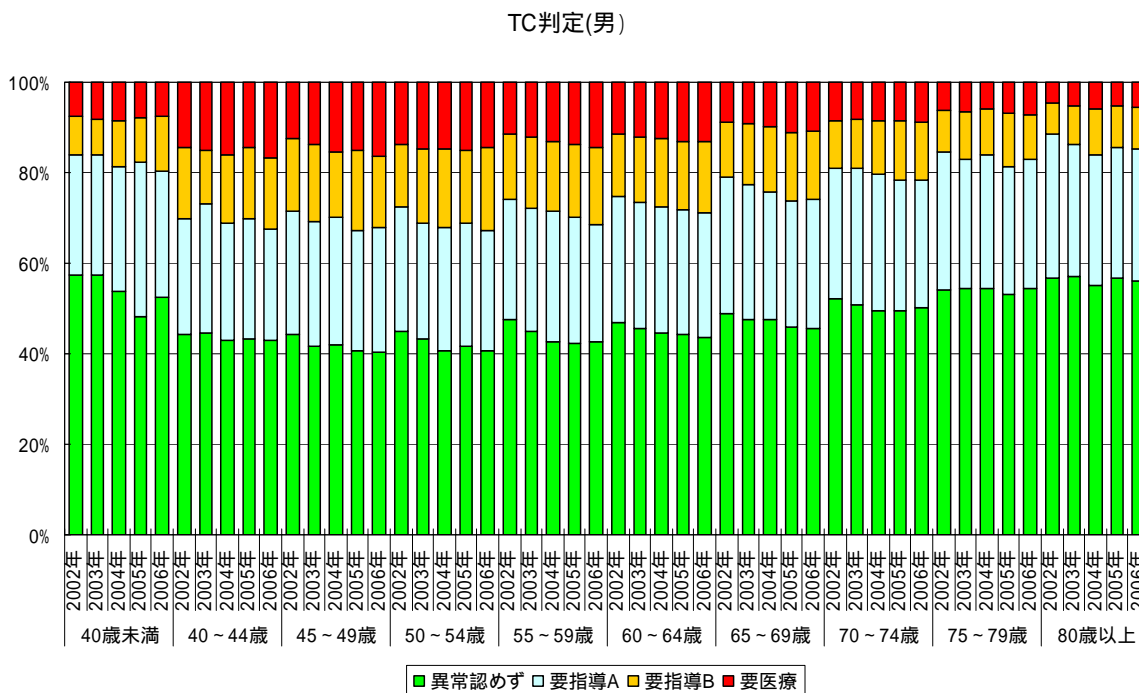
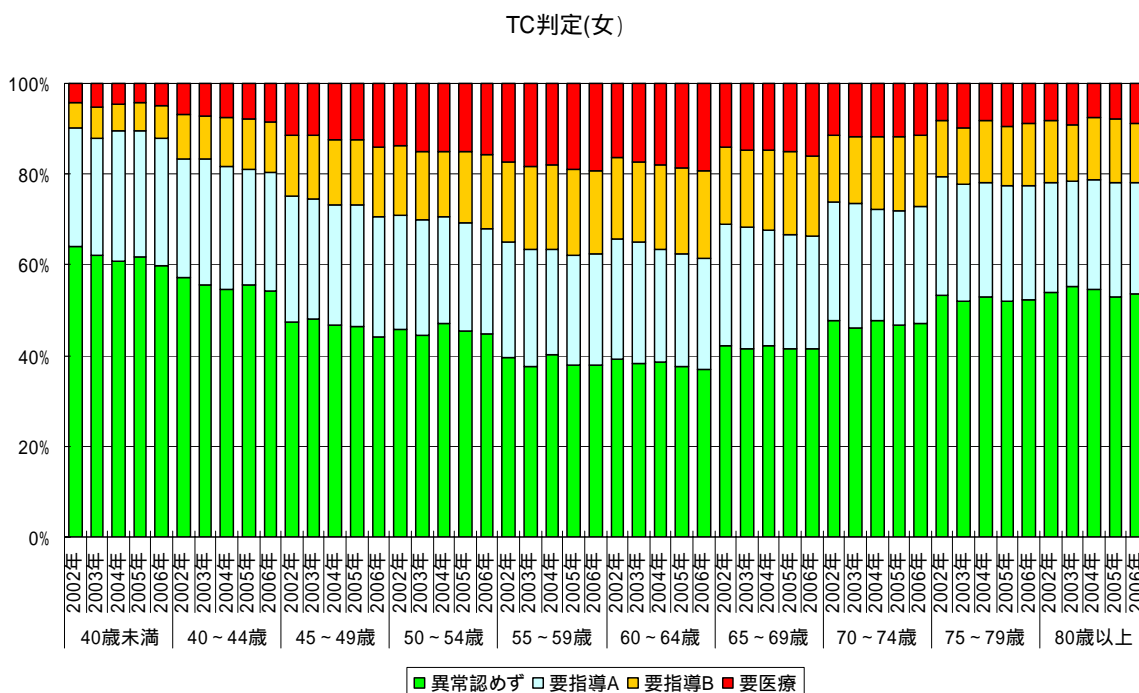


図 4-2 総コレステロール判定の性・年齢階級別経年変化（女）



4) 血糖

受診者全体の年齢階級別の判定区分の推移を見ると、男女とも 40 歳代以降の各年代において「異常認めず」が年々増加する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、男性では 40 歳代から「要指導」以上の割合が増加し、60 歳代以降は約 20% が「要指導」以上となっていた。女性では、「要指導」以上の割合が 50 歳以降で増加し、70 歳代以降は 15% 程度で一定になっていた。男女で比べると、いずれの年代も男性のほうが「要指導」以上の割合が高かった。

図 5-1 血糖判定の性・年齢階級別経年変化（男）

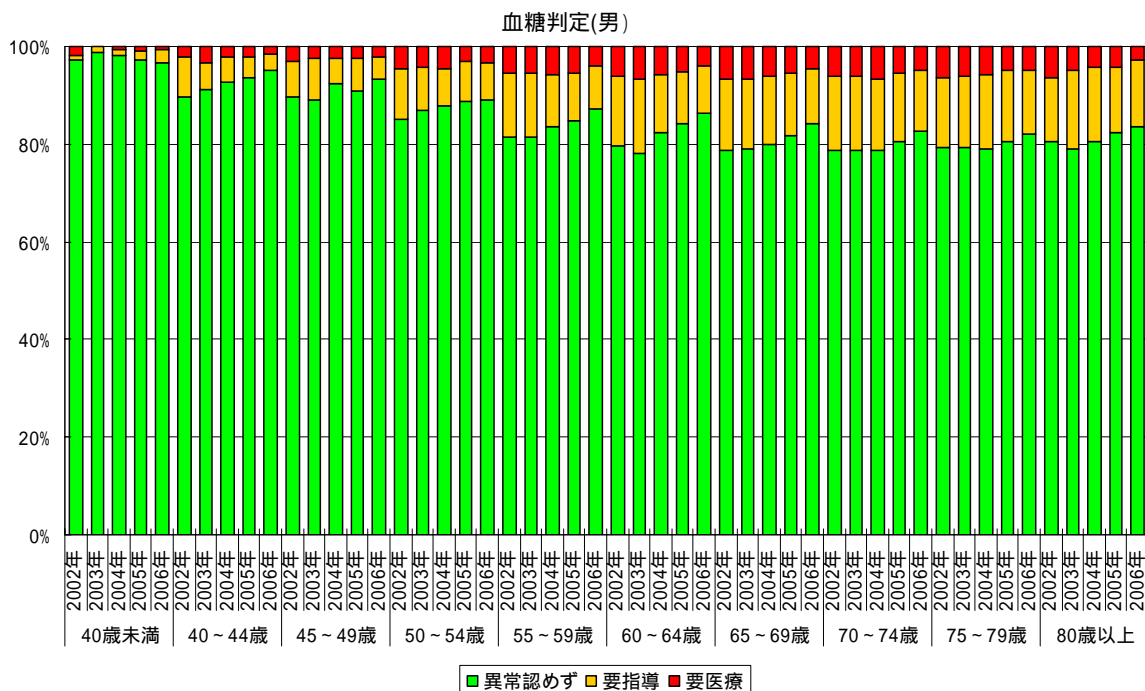
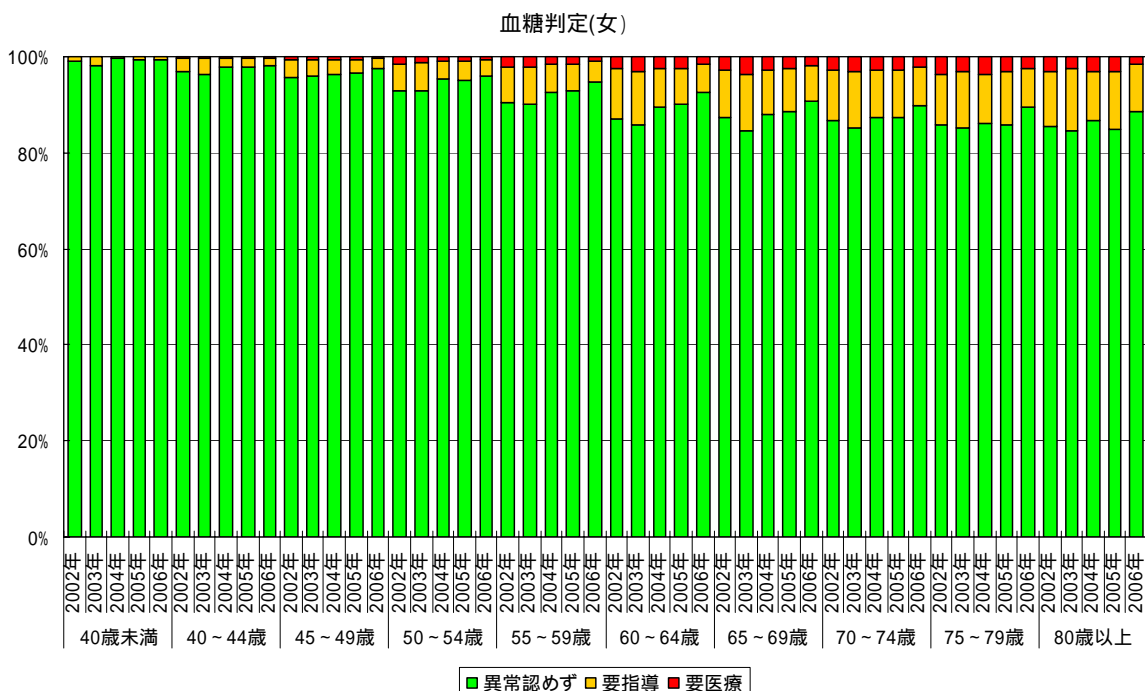


図 5-2 血糖判定の性・年齢階級別経年変化（女）



5. 性別にみた、同一人の測定項目別、5年間の平均値

1) BMI

同一人の5年間のBMI平均値の変化をみると、男性は2002年に60歳以上であった群、女性では2002年に50歳以上であった群において、加齢に伴いBMIが減少する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、男性は2002年に40歳未満の群の値が最も高く、24を超えていた。女性は60歳～74歳の群の値が最も高く、23程度であった。

図 6-1 BMI 平均値の性・年齢階級別経年変化（男）

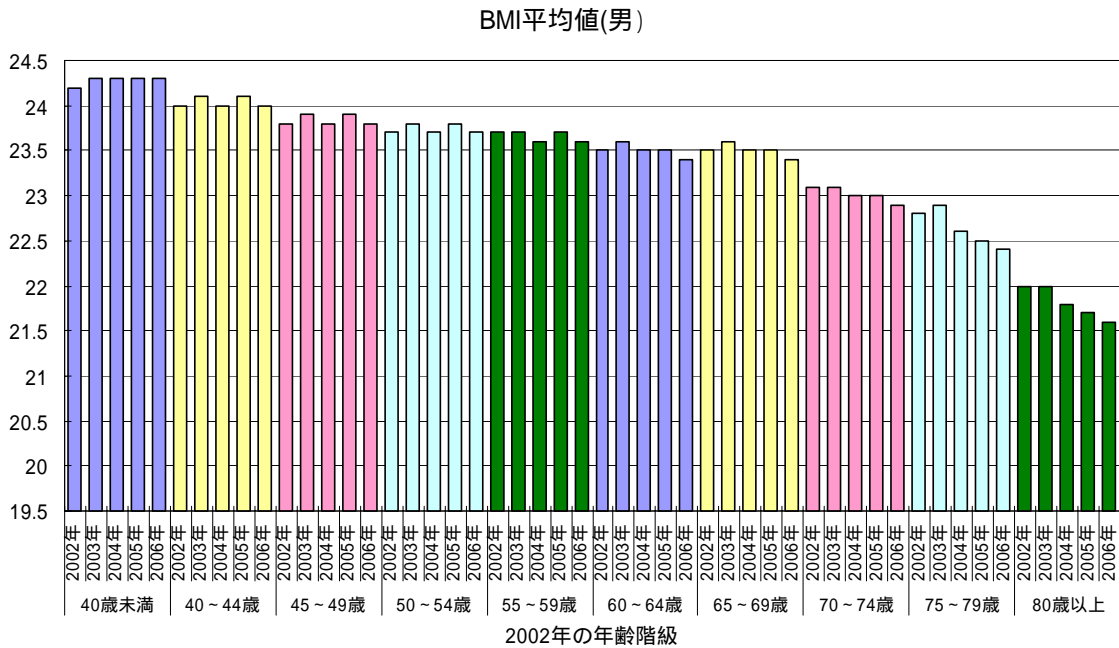
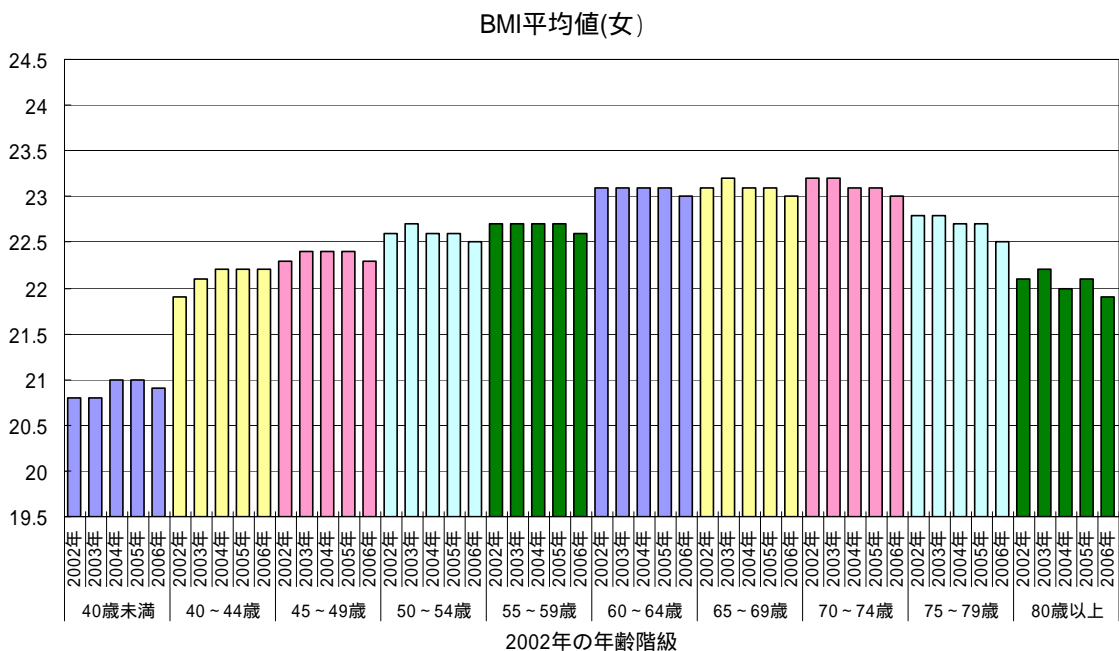


図 6-2 BMI 平均値の性・年齢階級別経年変化（女）



2) 収縮期血圧

同一人の5年間の収縮期血圧平均値の変化をみると、男性は2002年の年齢が70歳まで、女性は全年齢階級において血圧が毎年増加していく傾向が見られた。

年齢階級別にみると、2002年に70歳未満の者では、いずれの年齢においても男性が女性より高い値であったが、毎年の血圧の上昇は男性より女性の方が大きい傾向があった。

図 7-1 収縮期血圧平均値の性・年齢階級別経年変化(男)

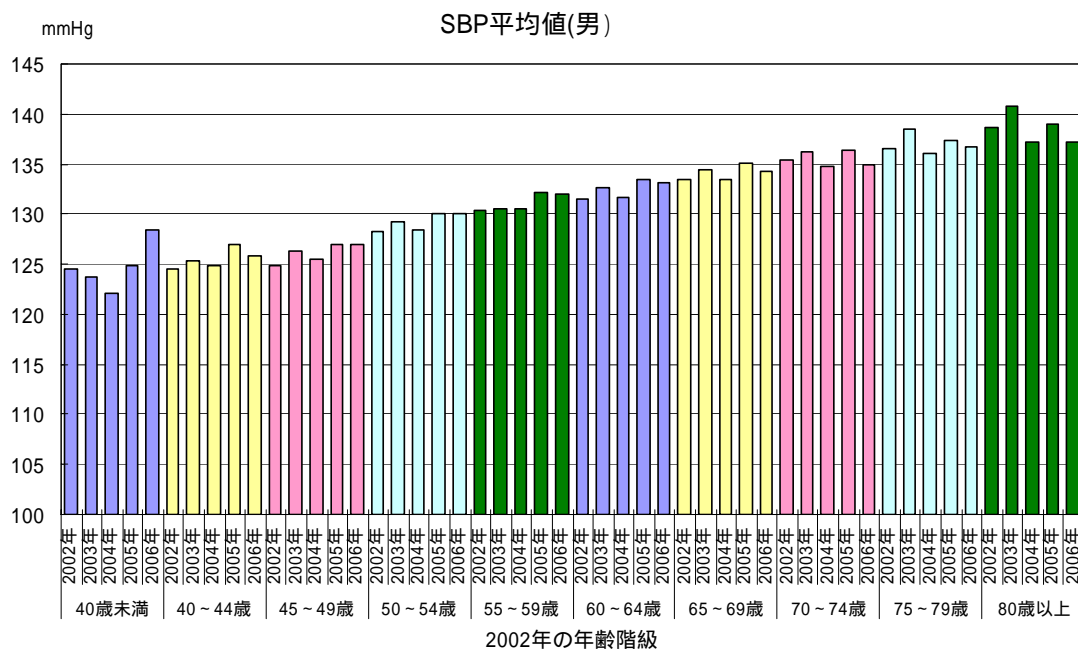
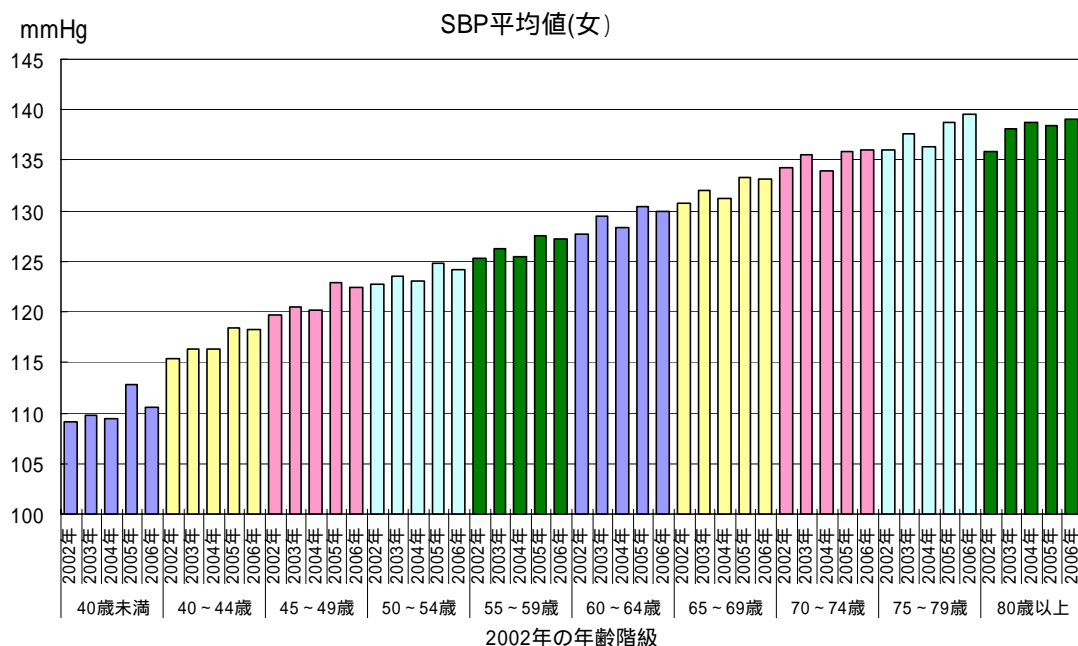


図 7-2 収縮期血圧平均値の性・年齢階級別経年変化(女)



3) 総コレステロール

同一人の5年間の総コレステロール平均値の変化をみると、男女とも2002年に50～54歳までの年齢階級においては毎年値が増加し、2002年に65歳以上の年齢階級では値が低下する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、男性は2002年に40歳～54歳が最も高く、女性では55～59歳が最も高かった。女性は45～49歳では5年間で15mg/dl程度増加しており、女性ホルモンの分泌低下の影響が大きいと推察された。

図 8-1 総コレステロール平均値の性・年齢階級別経年変化(男)

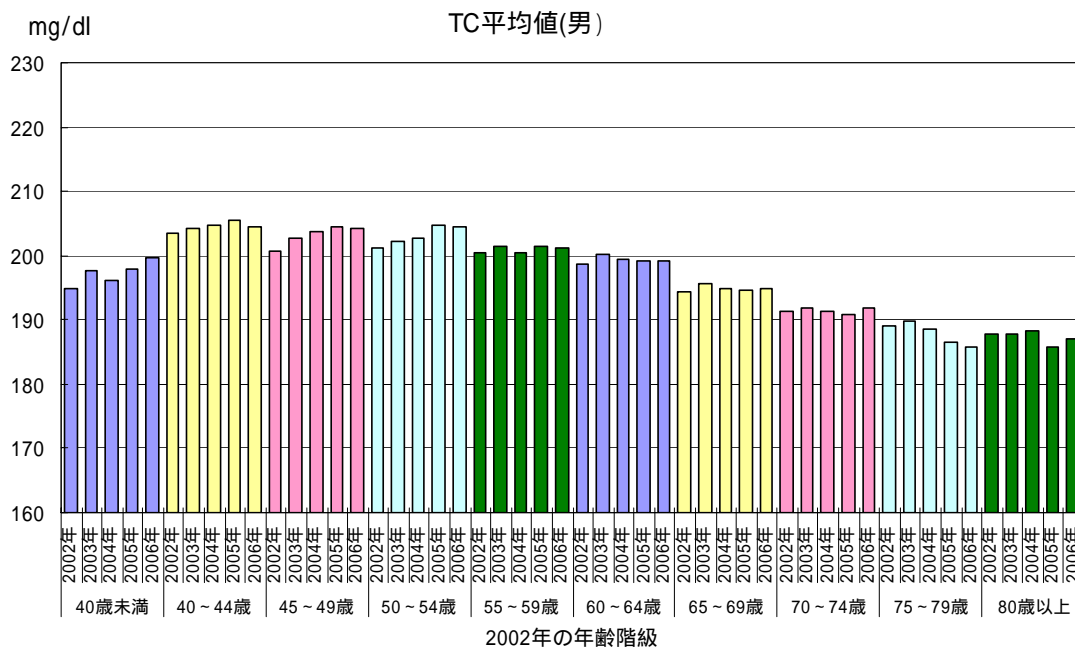
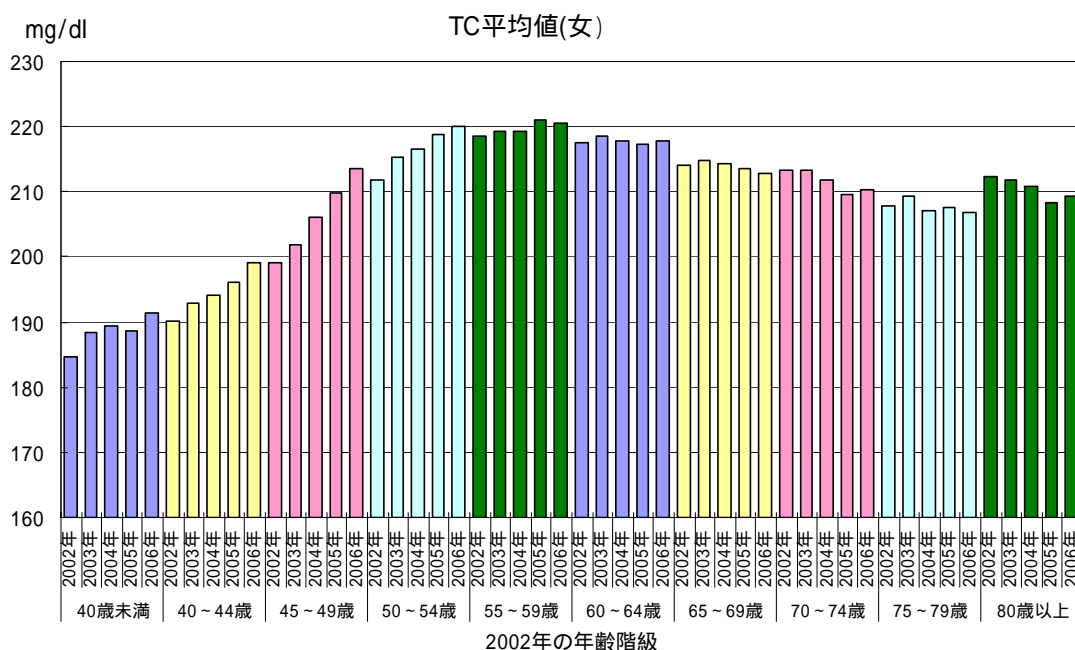


図 8-1 総コレステロール平均値の性・年齢階級別経年変化(女)



4) 中性脂肪

同一人の5年間の中性脂肪平均値の変化をみると、男性はいずれの年齢階級においても5年間で低下していたが、女性では5年間で増加する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、男性は2002年に59歳未満の群までは、平均値が判定基準の150mg/dlを超えており、若年者の中性脂肪値は課題の1つと考えられた。女性では平均値は基準値を下回っているが、40歳～59歳未満の群までは年齢階級が上がると測定値が高くなっており、中年女性においては中性脂肪値の増加にも注意が必要と考えられた。

図 9-1 中性脂肪平均値の性・年齢階級別経年変化(男)

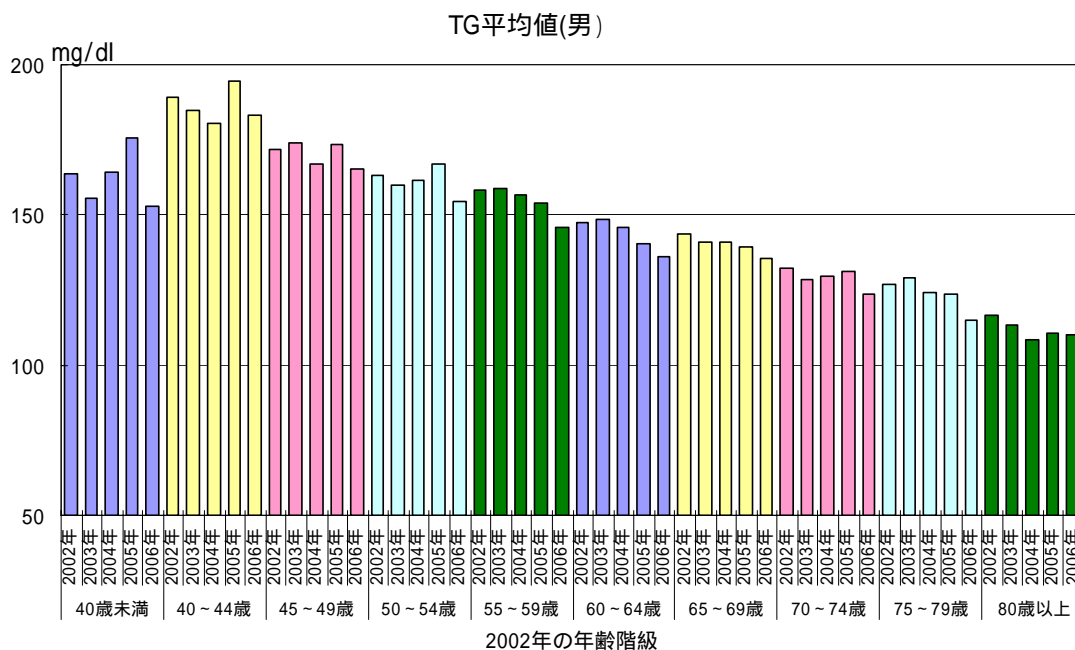
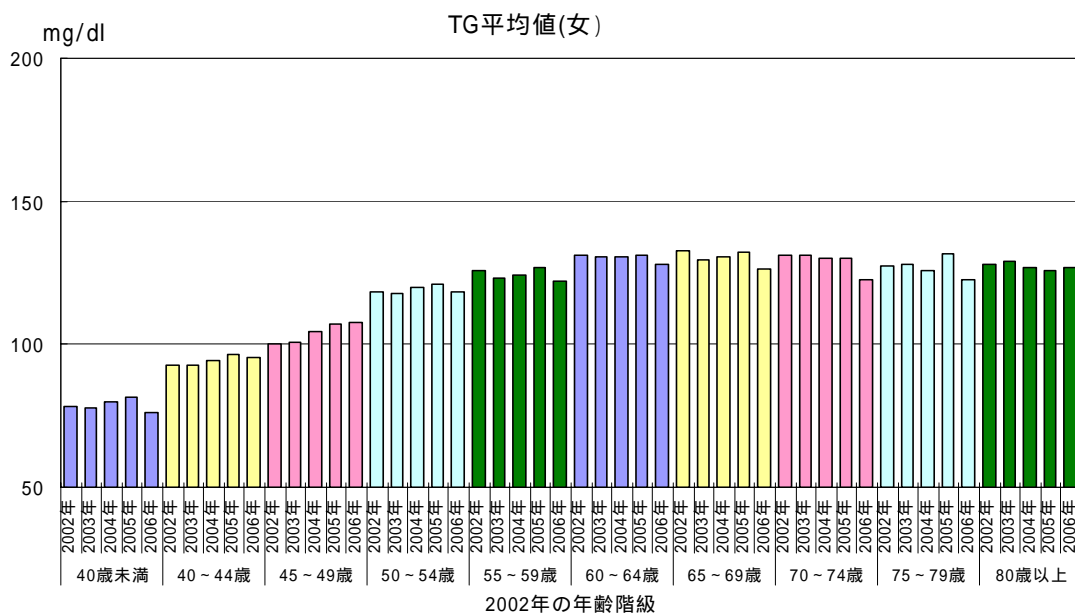


図 9-2 中性脂肪平均値の性・年齢階級別経年変化(女)



5) 随時血糖

同一人の5年間の随時血糖平均値の変化をみると、男女とも2006年の測定値が他年より低い傾向が見られた。女性は2002年から2005年までは平均値が増加する傾向が見られた。

年齢階級別にみると、いずれの年齢階級においても男性は女性より高値であり、男女とも年齢とともに高くなる傾向があった。

図 10-1 随時血糖平均値の性・年齢階級別経年変化(男)

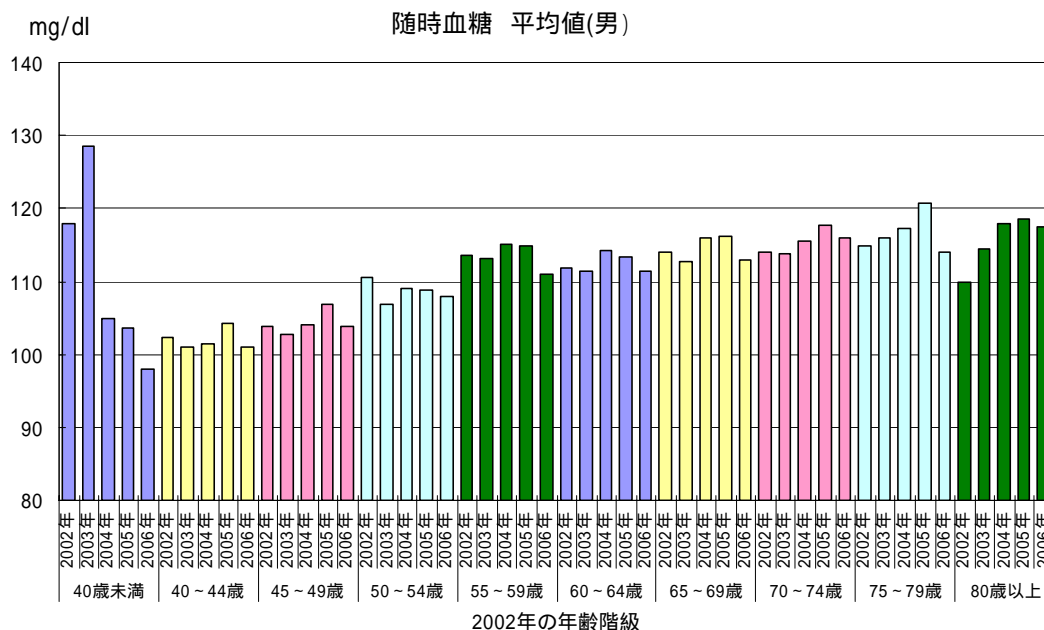
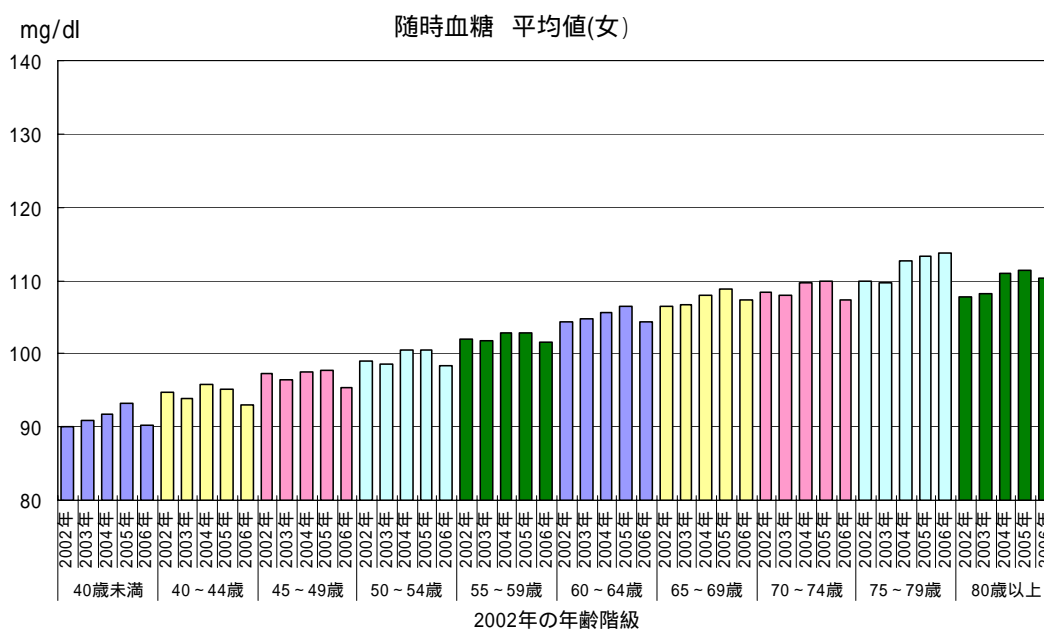


図 10-2 随時血糖平均値の性・年齢階級別経年変化(女)



6. 性別にみた同一人の測定項目別、判定区分「異常認めず」「異常認めず以外」の変化

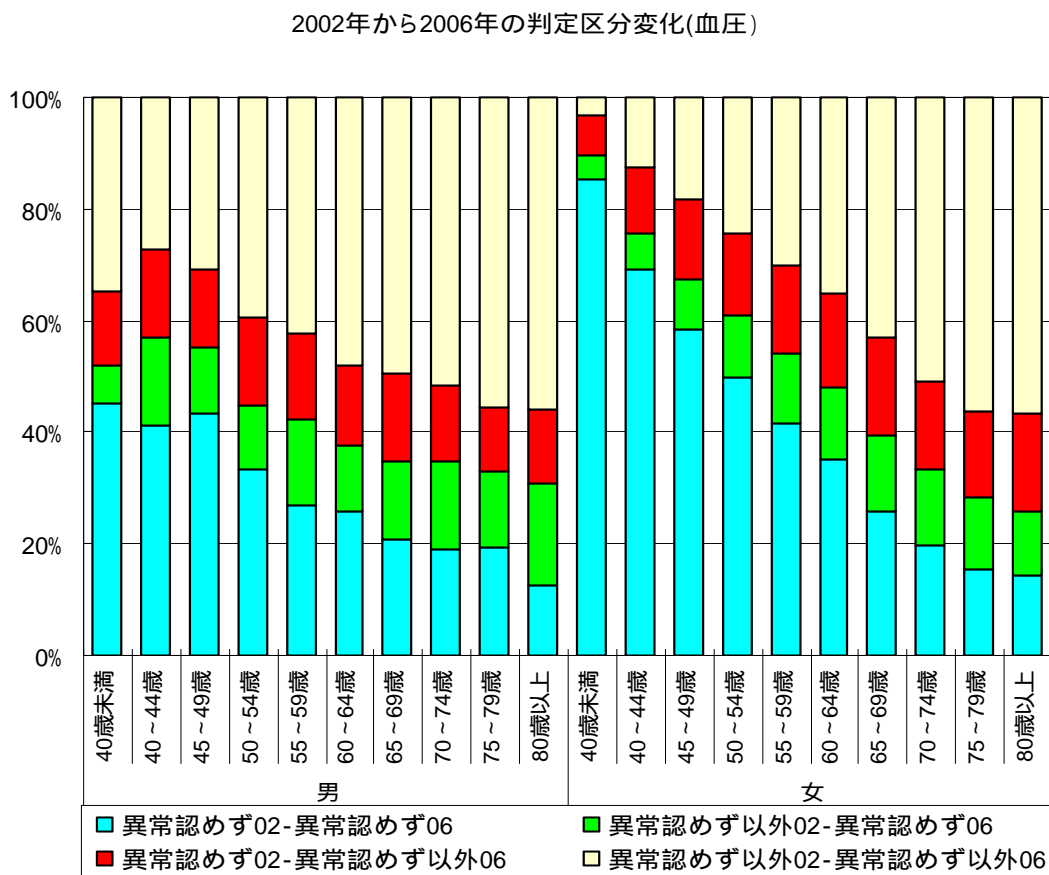
1) 血圧

男女とも年齢階級が上がると、「2002年、2006年とも異常認めず」の割合は減少し、その低下は男性より、女性の方が大きかった。

「2002年は異常認めず、2006年は異常認めず以外」となった割合は、男性は年齢に関わらず15%前後であったが、女性は40歳～69歳までの間は、年齢に伴いその割合が増加する傾向が見られた。

「2002年は異常認めず以外、2006年は異常認めず」の者については、受診した結果改善されたかどうかは受診に関する情報が十分に得られていないため判断できなかった。

図 11-1 性・年齢階級別、2002年と2006年の血圧判定区分の変化状況



2) 脂質

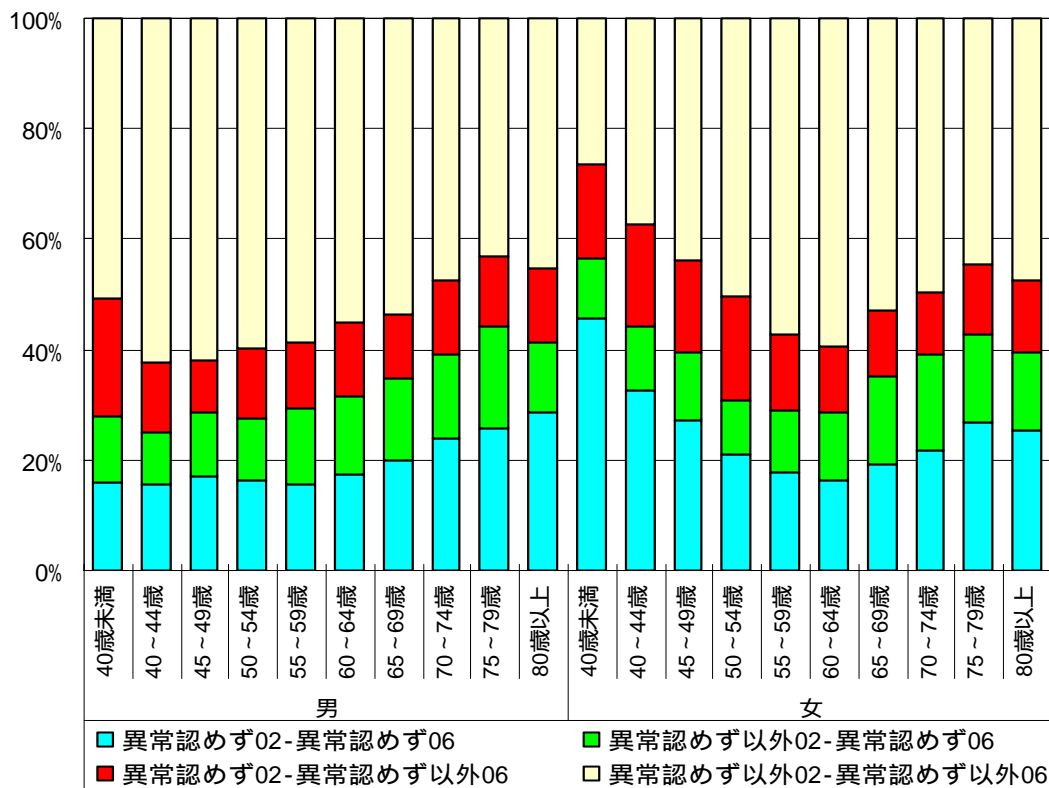
「2002年、2006年とも異常認めず」の割合は、男性は年齢階級が上がるに伴い増加していたが、女性は40歳未満から年齢に伴い低下し60～64歳で最も低くなった後、増加に転じていた。

「2002年は異常認めず、2006年は異常認めず以外」となった割合は、男性は年齢に関わらず10%程度であったが、女性は40歳～54歳までの間は20%程度と男性より多く、その後は10%程度になっていた。

「2002年は異常認めず以外、2006年は異常認めず」の割合は、女性は65歳未満に比べて65歳以上の方が多く、服薬（治療）効果の影響も考えられた。

図 11-2 性・年齢階級別、2002年と2006年の血清脂質判定区分の変化状況

2002年から2006年の判定区分変化(脂質)

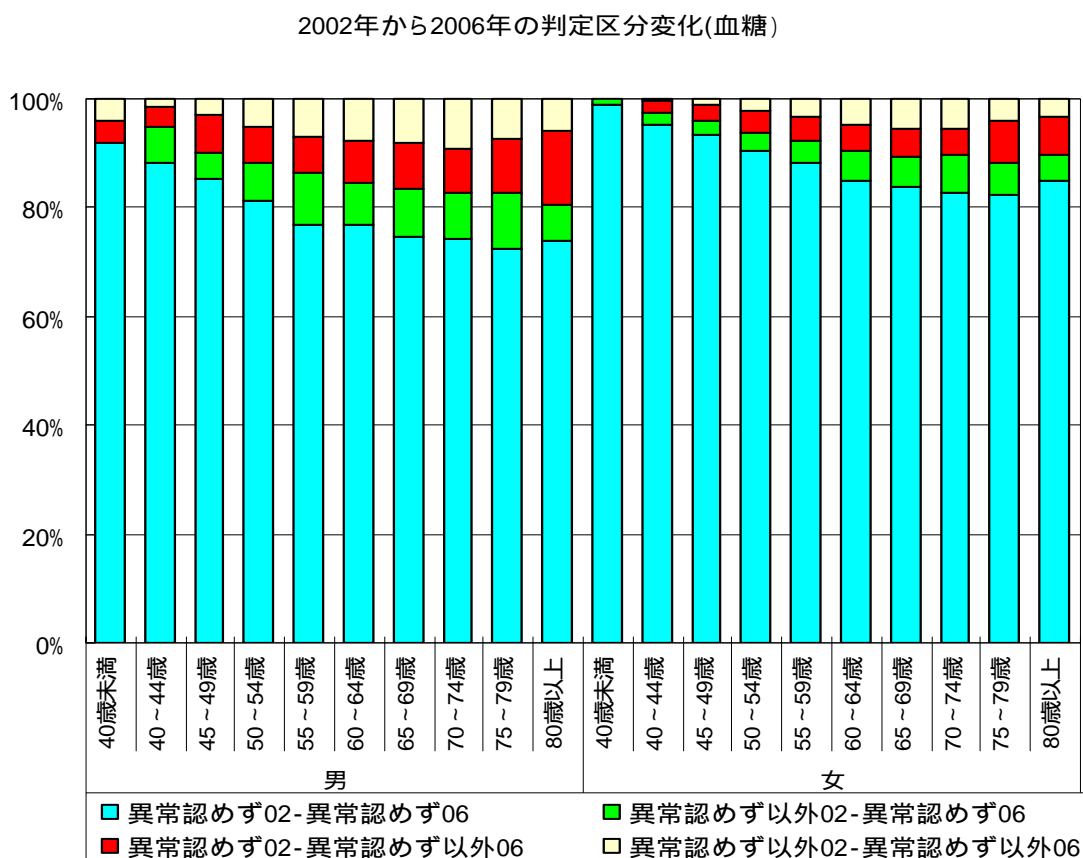


3) 血糖

「2002年、2006年とも異常認めず」の割合は、男女とも年齢階級が上がるに伴い低下し、男性では40歳未満～59歳まで、女性では40歳未満～64歳までの年代において大きく低下していた。

「2002年は異常認めず、2006年は異常認めず以外」となった割合も、男女とも年齢階級が上がるに伴い増加していたが、いずれの年齢階級においても男性の方が女性よりその割合は高かった。

図 11-3 性・年齢階級別、2002 年と 2006 年の血糖判定区分の変化状況



7. 性別にみた同一人の血圧、脂質、血糖の要指導以上項目数の増加割合

血圧・血清脂質・血糖について、2002年の各判定区分が「要指導以上」の該当項目数（0～3個）を基準とし、2006年の判定が「要指導以上」であった項目数の増加した者の割合を算出した。

男女とも、2002年は血圧・血清脂質・血糖のいずれも「要指導以上」に該当しなかった者が、1つ以上の判定項目が「要指導以上」となった者の割合は、年齢階級が上がるが増加していたが、男性に比べ、女性の方が顕著だった。2002年に「要指導以上」の該当項目がなかった者のうち、男性では40歳代以降、女性では55歳以降で約半数以上が5年後には1つ以上のリスク保有者となっていた。

2002年に「要指導以上」の該当が1項目であった者についても、男女とも年齢に伴い「要指導以上」の該当項目数が増えた者の割合が増加していた。男性では50歳以降では約40%が項目数を増やしていたが、女性では全年齢階級において、項目数が増えた者の割合は40%未満であった。

2002年に「要指導以上」の該当が2項目であった者については、年齢に伴い「要指導以上」の該当項目数が増えた者の割合が増加する傾向は男性より女性において顕著であった。男性と女性を比べると、男性の方が「要指導以上」に該当する項目数が増えた者の割合は高く、男女差が見られた。

図 12-1 年齢階級別、2002 年の「要指導以上」判定項目数別、2006 年の「要指導以上」判定項目数が 2002 年より増加した者の割合（男）

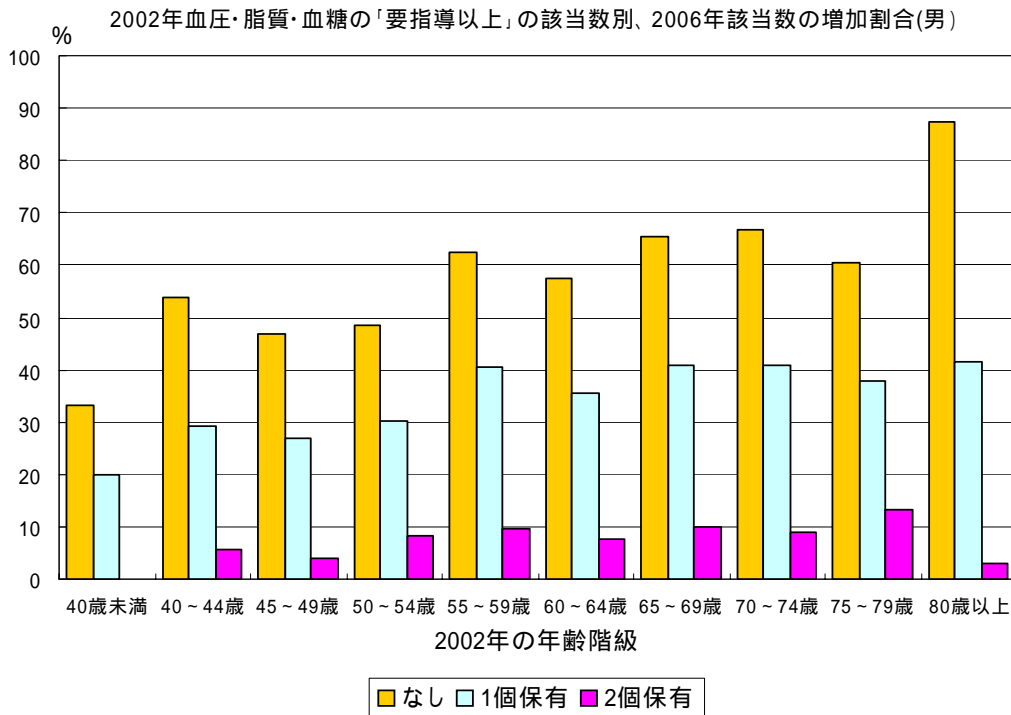
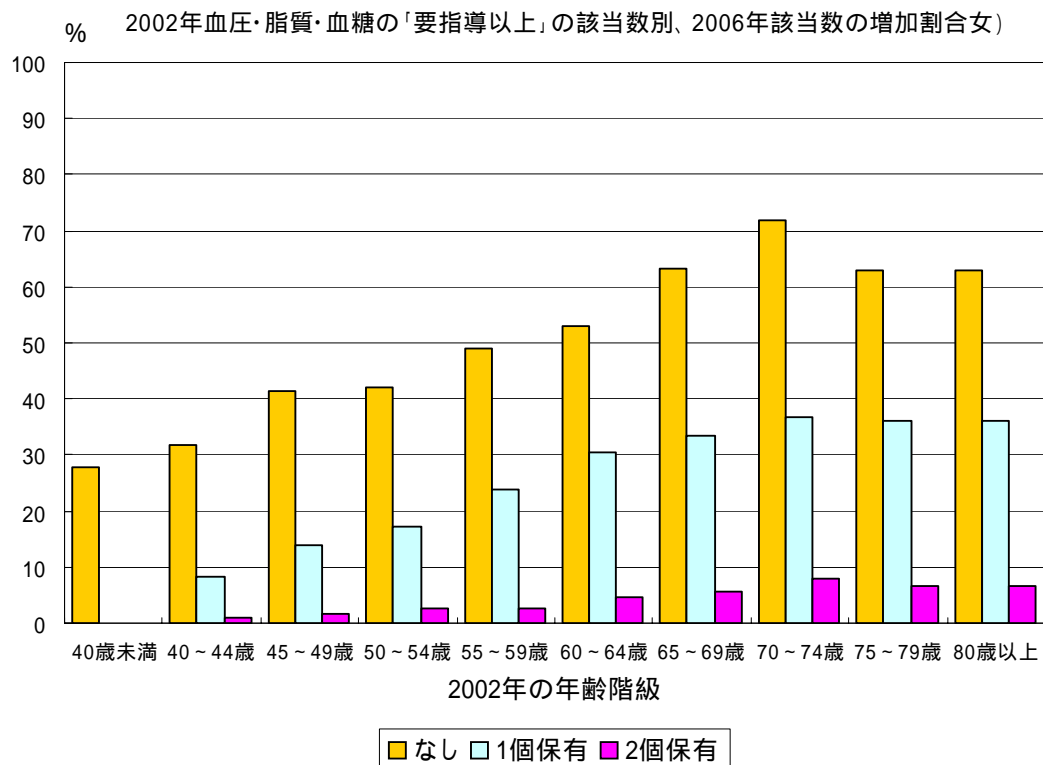


図 12-2 年齢階級別、2002 年の「要指導以上」判定項目数別、2006 年の「要指導以上」判定項目数が 2002 年より増加した者の割合（女）



8 . 特定健診の判定区分に基づく、2006 年の血圧・脂質・血糖のリスク保有状況

男女別に、メタボリックシンドローム判定項目である血圧・血清脂質・血糖の「保健指導判定以上」の該当状況の割合を年齢階級別の BMI 別判定項目に検討した。

保健指導判値は、血圧は「収縮期血圧 130mmHg 以上または拡張期血圧 85mmHg 以上または血圧の服薬中」、血清脂質は「中性脂肪 150mg/dl 以上または HDL コレステロール 40mg/dl 未満または血清脂質を下げる服薬中」、血糖は「空腹時血糖 100mg/dl 以上または随時血糖 140mg/dl 以上またはヘモグロビン A1c5.2%以上または血糖を下げる薬の服薬中」とした。

空腹時血糖または随時血糖とヘモグロビン A1c の両方を測定している場合は、空腹時血糖または随時血糖の判定値により判断した。

男女とも BMI が 25 以上の方がリスクの保有数は多く、男性より女性の方が差は顕著であった。男女とも血圧のリスク保有者が多かった。

表 2-1 BMI 区分別、メタボリスク保有状況（2006 年 男）（％）

	BMI	リスクなし	血糖のみ	血清脂質のみ	血圧のみ	血糖+血圧	血圧+脂質	血糖+脂質	血糖+脂質+血圧	合計
40 歳未満	< 25	56.8	2.5	18.0	15.0	0.8	6.5	0.0	0.4	100
	25	24.1	2.1	17.4	17.9	2.1	27.2	4.1	5.1	100
40～44 歳	< 25	41.3	4.8	23.0	13.4	2.0	9.5	2.9	3.0	100
	25	13.6	3.6	22.1	13.4	3.6	26.1	6.3	11.4	100
45～49 歳	< 25	33.5	5.6	18.2	17.6	3.2	13.7	3.7	4.6	100
	25	13.0	4.2	15.3	14.2	6.4	24.9	7.7	14.3	100
50～54 歳	< 25	27.6	6.2	15.4	21.0	4.5	15.2	3.8	6.2	100
	25	7.9	3.5	12.9	16.3	5.8	26.1	7.3	20.2	100
55～59 歳	< 25	22.5	7.7	11.0	21.8	7.4	16.8	4.0	8.7	100
	25	7.1	4.3	9.8	19.0	10.0	22.4	6.7	20.5	100
60～64 歳	< 25	19.9	8.6	9.1	23.6	11.4	15.0	4.1	8.3	100
	25	6.7	5.0	7.6	18.4	14.0	23.4	6.0	18.9	100
65～69 歳	< 25	17.9	8.1	7.1	26.8	12.8	15.1	3.8	8.4	100
	25	6.9	4.3	6.2	20.6	14.5	27.2	3.7	16.6	100
70～74 歳	< 25	15.9	7.1	6.5	28.7	14.3	15.5	3.5	8.5	100
	25	6.2	3.4	5.5	22.7	15.9	24.9	3.2	18.3	100
75～79 歳	< 25	15.5	5.6	6.7	31.2	15.9	14	2.4	8.7	100
	25	6.2	3.1	4.3	29.4	14.1	24.8	4.0	14.1	100
80 歳以上	< 25	16.3	6.2	3.5	37.9	14.5	12.4	1.9	7.3	100
	25	4.9	4.1	4.1	30.7	14.3	27.9	1.6	12.3	100

表 2-2 BMI 区分別、メタボリスク保有状況 (2006年 女) (%)

	BMI	リスクなし	血糖のみ	血清脂質のみ	血圧のみ	血糖+血圧	血圧+脂質	血糖+脂質	血糖+脂質+血圧	合計
40歳未満	<25	87.7	2.0	3.8	5.6	0.3	0.4	0.1	0.1	100
	25	52.2	2.4	14.5	17.4	3.3	6.7	1.3	2.2	100
40～44歳	<25	71.7	6.2	6.2	11.9	1.3	1.8	0.6	0.3	100
	25	31.0	8.2	10.8	20.2	7.2	10.7	6.1	5.8	100
45～49歳	<25	62.0	7.8	5.9	17.1	2.5	3.2	0.9	0.6	100
	25	27.4	9.0	9.7	21.7	9.7	11.2	3.8	7.5	100
50～54歳	<25	46.7	8.6	8.7	21.8	4.3	6.4	1.6	1.9	100
	25	17.5	7.8	9.2	22.9	11.6	15.3	5.5	10.2	100
55～59歳	<25	36.5	9.7	9.6	23.3	6.5	8.8	2.8	2.8	100
	25	13.5	7.9	7.6	21.5	14.8	16.5	5.6	12.6	100
60～64歳	<25	29.5	10.5	8.9	23.8	9.0	10.9	3.2	4.2	100
	25	10.3	7.3	8.5	23.3	12.8	21.1	5.0	11.7	100
65～69歳	<25	23.6	7.4	8.3	28.5	10.2	13.3	3.4	5.3	100
	25	9.0	5.6	7.3	25.1	13.8	23.8	3.5	11.9	100
70～74歳	<25	19.5	6.6	7.5	32.2	12.1	15.4	1.9	4.8	100
	25	6.8	3.9	5.4	28.8	14.5	25.4	2.9	12.3	100
75～79歳	<25	16.8	4.5	5.1	37.6	11.4	17.6	1.5	5.5	100
	25	6.2	2.9	5.5	32.7	16.2	23.0	1.7	11.8	100
80歳以上	<25	13.4	4.1	3.6	43.8	12.8	16.5	0.8	5.0	100
	25	5.3	2.2	5.3	34.0	16.7	23.1	1.1	12.3	100

資料

1) 測定項目別、5年間の判定区分集計 対象者数

(1) 男性

(人)

	2002年_年齢5歳階級										総和
	40歳未満	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	
02年	268	868	1175	1812	1663	2923	3266	2729	1553	802	17059
03年	320	876	1128	1740	1806	3146	3316	2812	1714	834	17692
04年	577	1207	1383	2091	2586	4034	4342	3437	2134	1013	22804
05年	623	1419	1602	2324	3292	4582	5454	4333	2676	1355	27660
06年	676	1316	1530	2137	3323	4084	5249	4021	2615	1463	26414

(2) 女性

(人)

	2002年_年齢5歳階級										総和
	40歳未満	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	
02年	1178	3527	4041	5629	5192	5475	4981	3761	2113	882	36779
03年	1211	3470	3907	5370	5503	5861	4971	3883	2267	1000	37443
04年	3729	5414	5806	7914	9185	7782	6149	4676	2661	1177	54493
05年	4451	6136	6255	8428	11219	8996	7555	5944	3279	1492	63755
06年	4841	5705	6221	7917	11075	8305	7227	5492	3250	1720	61753

2) 同一人の測定値の年次推移 対象者数

(1) 随時血糖以外

(人)

	2002年_年齢5歳階級										総和
	40歳未満	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	
男	75	318	526	825	797	1312	1500	1119	510	175	7157
女	422	1505	1896	2865	2709	2684	2331	1499	642	154	16707
総和	497	1823	2422	3690	3506	3996	3831	2618	1152	329	23864

(2) 随時血糖

(人)

	2002年_年齢5歳階級										総和
	40歳未満	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	
男	7	235	397	599	561	864	1082	808	396	144	5093
女	55	1171	1451	2078	1888	1764	1646	1088	521	126	11788
総和	62	1406	1848	2677	2449	2628	2728	1896	917	270	16881

3) 性・年齢階級別・2006年のメタボリスク該当項目組合せ 対象者数

(人)

	BMI	2006年_年齢5歳階級										総和
		40歳未満	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	
男	25未満	479	830	945	1400	2156	2767	3551	2772	1926	1165	17991
	25以上	195	448	530	658	1038	1141	1476	1103	581	244	7414
女	25未満	3880	4622	4857	6140	8485	6120	5064	3783	2327	1307	46585
	25以上	449	807	1090	1494	2108	1817	1811	1468	804	359	12207
計	25未満	4359	5452	5802	7540	10641	8887	8615	6555	4253	2472	64576
	25以上	644	1255	1620	2152	3146	2958	3287	2571	1385	603	19621